

気仙沼伝道 (2014年6月28日～30日)

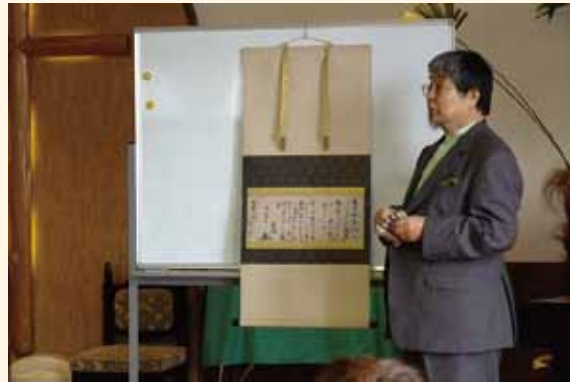
気仙沼聖書バプテスト教会 役員 日出忠英

主の御名を讃美いたします。

昨年(2013年)6月に続き、今年(2014年)も6月に、高橋敏夫先生、山田豊牧師御夫妻、曾我部兄を気仙沼の地にお送り下さった春日部福音自由教会の兄弟姉妹に心から感謝いたします。

今回も、被災者の支援活動と礼拝の御奉仕、又、市民向けの文化講演会を開いていただきました。それぞれの集会は守られ、大いに祝福されました。

気仙沼の多くの方々に福音を知らせ、御言葉が語られました。ハードなスケジュールで皆様さぞお疲れになった事と思います。主からの豊かなねぎらいがありますように。御教会の気仙沼でのお働きに対する、私の感想、思いと今後に期待することを少し述べさせていただきます。



聖日礼拝にて



仮設集会所にて

「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子となさい」マタイ 28:19

震災の年(2011年)8月に菅原正道兄の労によって初めて高橋敏夫先生と築館のホテルでお会いし、又、昨年は6月3日に御教会を訪問させていただき、春日部で高橋先生と御教会が長年取り組んでこられた宣教、伝道のお働きを見、聞き、新鮮な驚きでした。これまでの日本の教会の活動の盲点のようなものを教えられたからです。

地域に積極的にかかわるといふ事、(高橋先生の言葉では教会の裾野をひろげる)と茶道という切り口で日本人に福音を語るといふユニークさ、この2つ。今回の気仙沼での文化講演会に来られた方々は、教会の集会にはまず来てはくださらない方々です。そして日本文化に誇りを持ち、その日本文化の代表ともいふべき茶道、世界から注目される「おもてなし」の中心ともいえる茶道について興味をもって集って下さった方々に、高山右近の信仰、利休の死の謎、茶道と聖書、キリシタン信仰との深い関係が、最近発見された事実をもとに語られ、強いインパクトのある講演で、まさに伝道会でした。キリスト教に対する強い警戒心、また天皇に対する理屈抜きの尊敬、親しみをもつ日本人に福音を伝える為、実に有効であると思います。

今回も希望者が多くて、早々に締切の広告を新聞に出しました。私としても、更に多くの気仙沼市民に高橋先生の講演を聞く機会を作りたいと願っております。御教会のこうしたお働きが更に日本の各地で用いられるように祈ります。

本当にありがとうございました。

在主



煙雲館 左が日出兄、右が鮎貝文子さん

清瀬教会 (2014年6月15日)

清瀬教会代表執事 養田将一

清瀬福音自由教会では高橋敏夫先生をお迎えするのは2回目となります。

今回は父の日歓迎礼拝で『神のもてなし 福音—ジュスト高山右近の信仰—』と題して説教をして頂きました。

メッセージでは、憐みとは何か? 贖いとはどういう事かという内容から入り、高山右近をはじめ私達が良く耳にする武将や時代背景、実際の書状などを交えながら、当時のクリスチャンの信仰や聖書は全て神様のおもてなし

であると教えて頂きました。

礼拝後には昼食を共にしながら高橋先生のメッセージ内容について疑問、質問が色々な兄弟姉妹から出ており、又礼拝で使った書状を皆さんが携帯で撮影したりその場で先生に説明をして頂いたり皆さんの関心の深さが見られ、それに対して丁寧じつくりと先生が回答して下さった事に心から感謝しています。兄弟姉妹はまだまだ聞き足りない、高橋先生はまだまだ話足りない? というような中で交わりを終えた形になってしまいましたので、是非次回お招きする時にはじっくりと交わり学べる時を持てればと思っております。

感謝して。

春日井福音自由教会 (2014年5月10日～13日)

高橋敏夫先生との出会い

春日井福音自由教会 伊藤和人

5月10日。高橋先生が我が家の仏壇の前に座り、先生が3年前に仏壇に入れて下さった田ヶ原氏作の十字架を、未信の母が一番奥から引っ張り出して最前列に据え、そこで、主の祈りをともに祈る礼拝式が執り行われた。

高校2年生の時、初めて行ったキリスト教の集まりが名古屋Hi.B.A.だった。教会はおろかクリスチャンも聖書も初めてづくしの私には、神への思いに目を輝かせている人や宣教師になって神の為に働きたいと力強く語る高校生達は眩しかった。当時の先生は、高校生をグイグイと引っ張るスタッフで、当たり前のように、「近くに住んでいる宣教師を訪ねなさい、教会へ行きなさい。」と初対面の私に語った。それから私の教会通いが始まったが、それが先生の僅か3年の名古屋での働きの間のお会いだったこと、尾城先生着任前のコンラッド先生や鷹羽富美子先生による名古屋福音自由教会開拓の時期であったこと、全国の福音自由教会が名古屋のために祈っていたことを思うと、主の不思議なみ手を感じる。

何もわからないままで信じ、「洗礼を受ける。」と告白したときに、一番の問題は我が家の仏壇だった。母は泣きながら、「親族会議を。」と息巻くし、父は父で、「俺の葬式はどうしてくれる。」と言うので、大変だった。以来45年。仏壇の問題は、ムラでの身の処し方と共に私の中での大きな課題として常に心にあった。母を早くに送ったり、父を千人の葬儀で見送ったりする中で、田ヶ原氏の十字架と出会い、高橋先生の言う「伊藤家の文化として又アーカイブとして大切な仏壇。」という考え方に会って、はっきりと処し方を決める

ことが出来た。それが、仏壇前の礼拝だった。この度、先生の導きで未信の母と共に主の祈りをささげることができた恵みは、「我と我が家が主に仕えて行く」魁となったと信ずる。来し方を振り返ると、語るも恥ずかしいような信仰生活だが、全てをご存知の上で、「放蕩息子を待つ父」のように今日まで導いてくださった主に感謝し、残る生涯を主と共に生きていけるように祈る毎日である。

楽しかったお茶会

春日井福音自由教会 大矢ふじ系

新牧師館でのお茶会。とても楽しくお茶を頂きました。もっとかしこまった感じで頂くのかと心配していましたが、普段着で、しかも、礼儀作法もなく、安心して飲めました。「輝く牧師館」計画でペンキを塗ったりした後でいただく労働の後の一杯は、疲れをいやしてくれるものでした。又、その折には、義父が愛した茶碗を見て頂き嬉しかったです。こんな機会がなければ、使わせてもらえなかった茶碗。義父の面影が偲ばれた懐かしいひとときでした。きっと父も偉い先生にお会いし、喜んでいると思います。記念すべきひとときとなりました。

